

知府 下平出領 師

内務省用

次

警保局長小倉

親展

八咫指輝大旨殿

第一〇号

114  
A 4656



114  
A 4656

写 高甲第 四四九号

曩ニ東京巢鴨監獄支署ニ於テ耶蘇宣教師ヲ其教誨師ニ採用セシ事件ニ對スル府下宗教社会ノ形勢ヲ内復シ



折モ本件ニ直接ノ関係ヲ有スルハ本派本願寺ニシテ次クモノヲ大谷派本願寺ナリトス然ルニ大谷派本願寺ヲ石川舜台ハ本件ニ付東上中貴大臣ニ伺書ヲ提出シタル趣ニ同ユルモ右舜台ノ云為ハ一己ノ資格ニ出テ、本寺ヲ代表シタルモノニ非ルカ如ク而シテ本寺ニ於テハ目下

之カ為メ反抗運動ヲナス模様見エズ

又本派本願寺ニ在リテハ曩ニ典獄會議ノ際辻本相照ナルモノヲ派遣視察セシメタルカ今人等ノ報告ヲ同キ政府ハ必シモ耶蘇宣教師ヨリ教誨師ヲ聘用スルニ非サルヲ知

リ得タリトテ直ニ本寺ニ辱スル全國教海沙ニ向テ依然其  
職務ニ奮勵シ教海ノ実効ヲ擧ゲヘシトノ意ヲ表示シタリ  
ト云フ

次テ去ル五日本件ニ付上局會議ヲ開キタリシモ議事平和ニシテ結局  
政府ニ対シ及抗運動ヲナサザリハ寧ロ派内僧侶ノ多ク成ニ勉メ一面耶  
蕪教ニ衝リ社会ノ帰依ヲ厚ウセシメ又監獄教誨師ノ如キハ尔来精進シ  
テ其實ヲ擧グルヲ企フヘシト決シ別ニ反抗ヲ企画セル模様ナキト云  
其他各宗各派ニ至ラハ新少雜誌ガ喧傳セラルニ似ス比較的沈静ノ姿  
ニ不穩ノ狀況ヲ認メテ而シテ本派本願寺執行藤島了音ガ去ハ日東上  
シタルハ重ニ此間政府ノ制定セントスル寺院法ニ関スル用件ヲ帯ヒタル趣ニお  
同ハ条刻下本件ニ付テノ動靜一應此処及内申リ也

明治三十五年十月十一日

京都府知事内海忠勝

内務大臣伯耆板垣退助殿

414  
A 4656



機第 四四五 號  
九月廿九日  
鑛毒被害民之関スル件

今回鑛毒被害民出京者、是人分金貳圓五十支宛ノ旅費ハ足利所  
ノ高松村浅平ガ運動費トシテ金四萬圓程一時出金シタルヤ  
コトニテ暗ニ薩派ノ殘党タル新井章吾ガ現内閣ヲシテ其金持  
ニ苦マシムルノ策ニ出ラタル由ニテ今回上京ノ須永金三郎亦充  
煽動セシト一ハ田中正造ガ騷擾ノ起ラザル前ニ被害地ニ行キ演  
説ヲナシ被害民ノ上京ヲ抑制セントシタルヨリ一層ニ被害民オ  
ノ疑ヲ招ク所トナリ加之日人ニ古川市兵エヨリ去月中旬ニ十四  
ノ運動費ヲ貰受タルノ風説ヲ被害民ガ傳聞シタルヨリ先頃来ヨ  
リ出京シ居ル委員ホモ古川ヨリ多少ノ賄賂ヲ貰ヒ居ルモノナ  
リト疑ヒ斯ル委員一任ニ置ク所ニ今後如何ナル悲境ニ陥ルヤ  
モ難計トノコトヨリ旁遂ニ上京スルニ至リタリト云フ

114  
A 4656



之正正早箱白

御寄大隈直信殿閣下

御親展



麻布正新細所一丁目三番地

原十日十

明治二十五年五月十一日

多承新化後故之旧雜林層主、回費、全才、領  
内、堤防、之、注、申、可、餘、澤、ハ、今日、三、三、ハ、新、馬、野、ハ、  
堤外地ヲ、除、ク、外、ハ、水、宜、少、ク、掘、木、野、ニ、接、ス、ル、可、堤

九民 河島 未嘗 空也 祖家 三ノヲ 尾月 吃上





防トシ見んハキモノテノ得ル出水ニ堤防ノ破損ヲ見ん  
ルコ有之也蓋テ故ニ洪水ニ於テ初嘗テ橋本野下ニ  
於テ是レキハ子得也テ守定ニ即治也

一 海良原川ニ洪水ノ多キ有リ前際ノ如クニ尾尾田東  
ノ洪水ハ其歲ノ日相ニ此收獲トモト翌年ニハ洪水カ  
注キ先泥カ天竺ノ肥新トテ博收獲ヲ得んテ  
有之也亦近年ノ洪水ニ依リ田相ニ注ク泥沙ハ處ニ  
肥新トモト水カ年々トモ其量ノ有之也多ク是レ海  
良瀬止流ニ足尾領山トモカ鑛物ヲ控掘シ是レ  
亦多流出先泥沙以潤鑛毒トモトテ亦為テテ  
害民ノ信憑シ有リト起因ニ有之也  
一 新集民ハ鑛毒問題ヲ唱導スル後軍ハ地方官ニ



際情スルニ海合ノ管田トテ足尾領山主カ始島  
的示認テ早村ニ一戸平野尾田ノ新ニ示認  
テ出金シ七村ハ尾尾田主カ出金シ内村  
ニ一戸如月ノ新ヲ以テ永久ノ事情ヲ為サレテ内村  
ニ其法早ヤ早村ニ七村ニ於テ示認金ノ多キニ其情ヲ  
唱ヒ七村ハ内村ノ以テ示認金ノ新際ヲ領山主ニ請  
求シ其間ニ種々ノ思案ヲ生シ是レ其ノ殊ニ其内村  
助限ハ既九九年ノ六月ニ改シ翌外ニ其領山主ハ洪  
水ノ修仕ヲ是レ鑛毒問題ノ國家ヲ加シテ  
テハ起因トシテ移移也  
一 鑛毒ノ問題ハ栗山ノ柱師ラレテ田相ニ注キ先泥カ  
ヲ分拆スルハ助導ニ有之也其後不方ノ弊是見

師名考正に申上座は此謂後室被室ノ原因ナ  
ル也ハ厚良殿川水源函着山林ヲ休採先山  
々々シテ先使軍ハ終ニ雖大ノ膏岩ヲ山崩落スニ至リテ  
崩落ノ膏岩ハ諸流ノ岩石ニ碎靡セリ加フハ是尾  
前山カ採掘シテ運送可ノ泥沙ヲ流出シテ各部ノ  
ノ混交シテ於有能足ノ溪流ニ於テ碎セリ平地礫ノ  
此中初生以南古河迄ノ川地ニ沈澱シテ泥沙カ洪水  
ノ為ニ田畑ニ進入シテ此ノ以滑泥室土也ノ可  
有之也

一膏岩ノ泥沙ト運送可ヲ流出シテ泥土ニハ滋養長キ  
土質ナリ肥料トシテ之ヲ肥テ了ル所ニ於テ是ハ  
此所ニ即河川田畑ノ洪水カ田畑ニ浸キテ泥土ノ此ハ



山林ノ間ニハ木葉ノ滋養ハ泥土カ田畑ニ浸キテ  
ナリ洪水ニ依リ田畑ヲ肥饒シ増収獲ヲ見ル事  
ニ可有之也

一前山カ採掘シテ運送可ヲ流出シテ此ノ川  
々々原因ナリ又々木葉ノ滋養ハ雨物カ近來田畑  
肥料トシテ是量ノ石原ヲ便用スル川魚ナリ  
原因ナリト又々甚シキ至ラハ相生是利地方近來ニ  
於テ陸軍ニ多量ノ肥料ヲ賣ス一因ナリ又々此ノ  
是也其ハ此物ノ賣スニ過中不賣山ノ存師ニ此  
ナリ是是此ヲ説テ知ハルニト存師

以且ハ岸ニ以滑泥室被室地ニ就キ是考化是ナリ  
ニ即河川利室被室土ノ最良ト最良ト信ス



於今平復入地日ヲ助シテ印名考ニ供成存正也  
琴上隆在論言

明本再考其日工り

原言字原市正新湖所一丁目地記書地

原 十月 吉



仙秀右殿因下

474  
A 4656

急  
省議院  
秘書長

市

第  
四  
四  
号

内務省用

警備局長小倉  
次

ケリ



414  
A 4656



總代五十名ヲ残シ他ハ帰村ノ途ニ就ケリ

鑛毒子伴  
榮保馬長 憲兵司令官

鑛毒子伴 榮保馬長

鑛毒子伴 榮保馬長



内務省用

日 日

18

414  
A 4656



自明治三十一年一月  
至同三十年九月  
行政訴訟件數及既決未決表

計	旧受 廿九年	旧受 三十年	新受 三十一年
一三八	五	五八	七五
八六	三	四七	三六
五二	二	一一	三九

備考  
昨三十年ノ總數ハ百二十五件ニシテ内七月十月マテノ出齊  
係ルモノ五件ナリ本年ハ一月ヨリ七月九月マテノ件數七十五件  
ニテ昨年ニ比シテ二十五件ノ増加ナリ  
昨三十年七月マテニ判決若クハ裁決シタルモノ七十一件ニテ



之ヲ本年七月マテノ既決事件ニスルトキハ十五件ノ少数ナリ  
本素ノ外訴訟費用決定書ヲ<sup>付</sup>未付ニシタルモノ三十二件アリ  
本年一月ヨリ七月九日マテニ

114  
A 4676



署外

昨日大臣閣下當監獄津巡見之除刑事  
波若人中控訴及上告者一年以上滯獄調  
津証文所取調貴官近差出屋奈進達  
方可然津所斗相成度地股申進也

警視廳第四部

明治三十四年九月六日

典獄 若山茂雄



農商務大臣御官對馬健之助殿

警視廳



歐遊遊九所等和面世國城一野歐

皇國海七五七四

典類略子版

明倫彙編



此三對要旨也甚感或某既母司天功

張游代吐恨遠遊物區司諸其以而收司國

遊在入中前遊或十治法一海心十折被遊

井日六田遊下地西野遊張司馬一察遊明

張

400

明治三十一年九月六日現在

刑事被告人九百六十八人、内男九百三十八人

办譯

控訴中者五百三十二人、内男五百三十二人

办權邊地方裁判所判決三停三三、三百四十九人

上告中者四十五人、内男四十四人

办兼事地方裁判所判決三停三三、三十五人

办權邊地方裁判所判決三停三三、三十五人

Vertical text on the left margin of the bottom page.

一年以上滯獄刑事被告人

(九月六日現在)

年月日	被告人	事件	裁判	區判	氏名
三〇六	井口正光	詐欺取財	公判	中	井口正光
三一〇	飯山正秀	詐欺取財	和訴	中	飯山正秀
三二〇	服部 皎	官文書偽造	公判	中	服部 皎
三三〇	本田惣八	詐欺取財	和訴	中	本田惣八
三三〇	星 豊三郎	冒 認	和訴	中	星 豊三郎
三三〇	岡部弥兵衛	詐欺取財	和訴	中	岡部弥兵衛
三三〇	小栗信敏	監守盗	上告	中	小栗信敏
三三〇	岡田 國造	謀 殺	控訴中	但死刑	岡田 國造
三三〇	岡田 蕃	官文書偽造	控訴中		岡田 蕃

滯獄刑事被告人

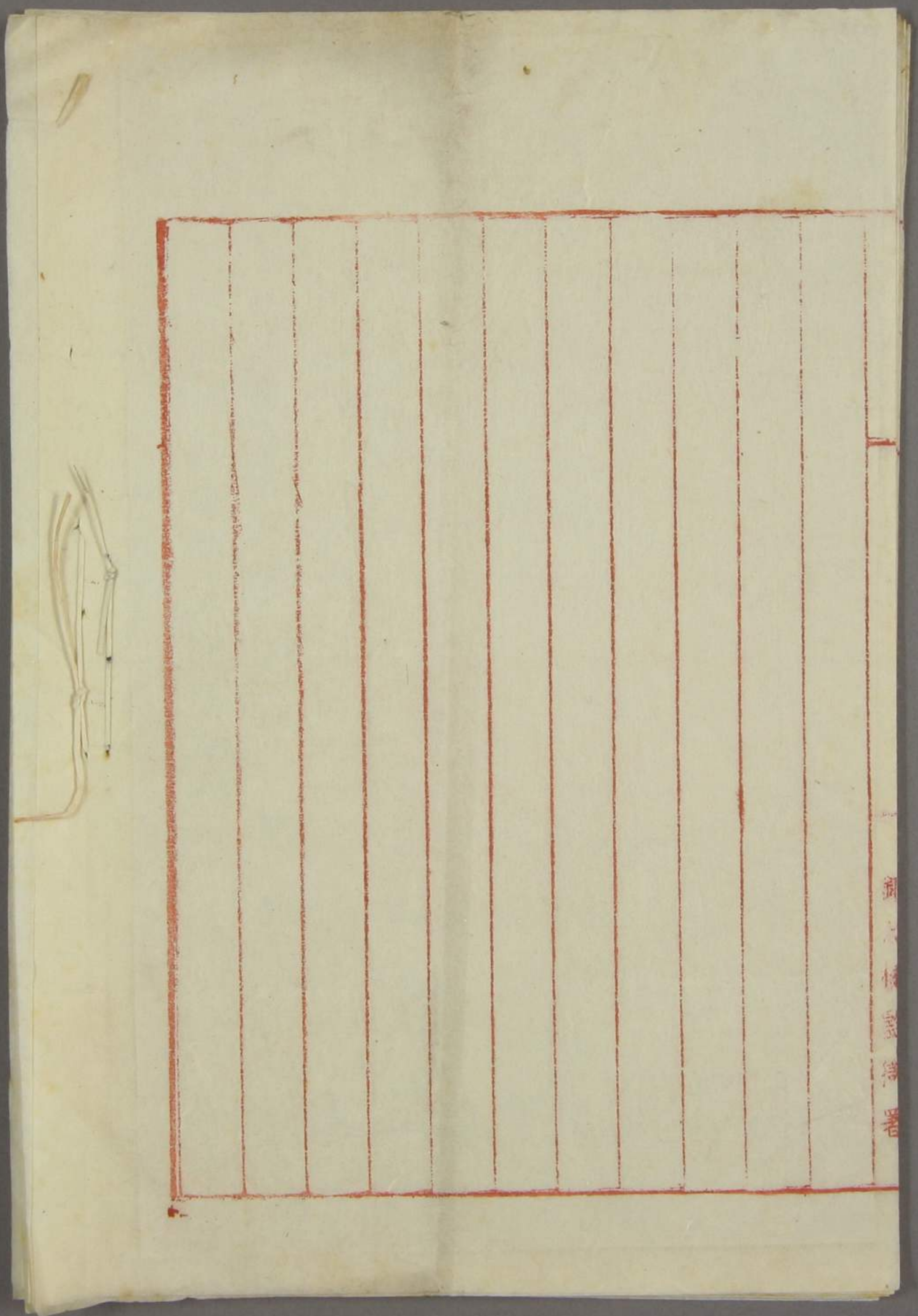




二九二	二	私書偽造	控訴中	安藤信太郎
三〇五	八	謀殺	全	佐藤扇之助
六三〇	冒	認	全	君島久伊
七三七	今		全	桑池金太郎
二九三	二	私書偽造	全	三嘴林次郎
九二一	竊	盜	全	三宅捨五郎
二二二	二	私書偽造	全	平尾歸藏
三三二	二	詐欺取財	全	廣井鑄三郎
七一〇	偽	証	全	征天野正雄
三一〇	詐欺取財	全	全	杉本專太郎
五八	謀殺	全	但死刑	阪巻ヤ人

二年以上滞獄刑事被告人

二九五	九	官吏書偽造	控訴中	吉田友太郎
三五五	今		全	吉村忠道
二八三	二	五	全	山村良貴



無  
字  
號  
號  
號

114



友之秘書有取

以理去其下  
認此

武田節書



414  
A

Handwritten notes in cursive script, including the characters "事務" (Administration) and "事務" (Administration).

秘

第七號議案

各省判任官定員ノ五分ノ一ヲ減少スルコ

ト判任官ノ最下級俸ヲ十五圓(九級俸)ニ止ル

コト





初

八月十二日午前十時全議

勅令第

判事檢事官等俸給令

第一條

判事檢事官等、高等官一等乃至

第二條

判事、檢事、各職、就其、俸給、限

大定

長

勅任 一級俸

部長

勅任 四級俸 又 三級俸

判事

勅任 二級俸 乃至 勅任 四級俸

大審院檢事

檢事

勅任 二級俸 又 一級俸 乃至 勅任 三級俸

檢事

勅任 二級俸 乃至 勅任 三級俸







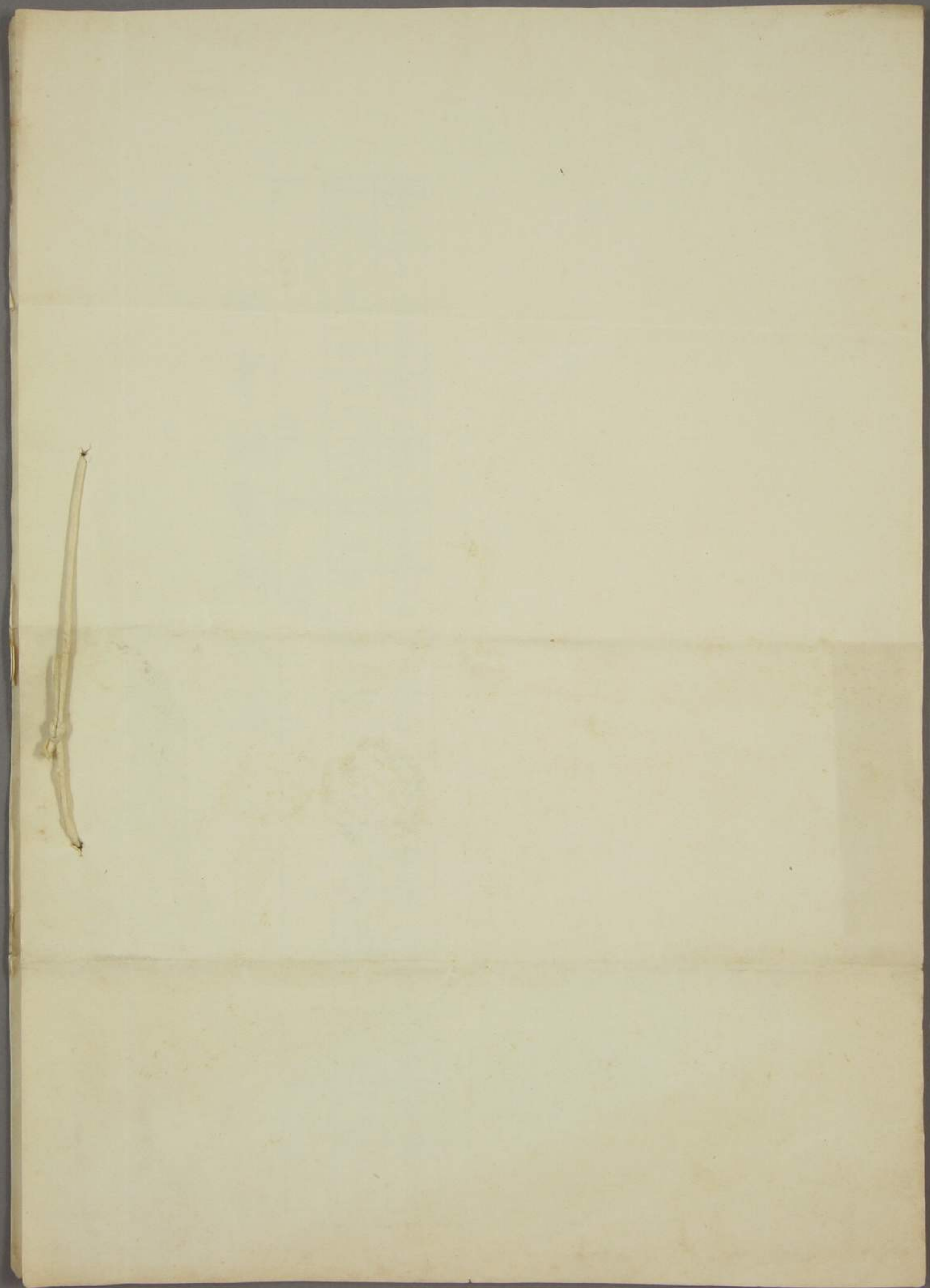
第六條 給スル  
 左ノ如ク  
 大審院ハ院長一人部長三人判事二十七人ヲ以テ定員トス  
 大審院檢事局ハ檢事總長一人檢事七人ヲ以テ定員トス  
 控訴院ハ院長七人部長十七人判事九十五人ヲ以テ定員トス  
 控訴院檢事局ハ檢事長七人檢事二十二人ヲ以テ定員トス  
 地方裁判所ハ院長四十九人部長七十七人判事三百十五人ヲ以テ定員トス

地方裁判所檢事局ハ檢事正四十九人檢事百八十人ヲ以テ定員トス  
 區裁判所檢事局ハ檢事二百九十人ヲ以テ定員トス  
 區裁判所檢事局ハ檢事二百九十人ヲ以テ定員トス  
 第七條 判事檢事各職ノ進級ハ按擢ヲ以テ之ヲ行フ  
 第八條 判事檢事ノ裁判所内ニ於ケル席次ハ官等ニ依リ官等同ニキ者ハ俸給ノ多寡ニ依リ俸給同ニキ者ハ俸給下賜辭令ノ日附ニ依ル  
 第九條 附則 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ交付セザル

第十條 者、現在、俸給ヲ給セラル、モ、トス  
 又、第十條 明治二十七年二月十四日勅令第十七  
 號 判事檢事俸給令、本令施行ノ日ヨリ廢止

判事檢事俸給表

五千四百	一級	勅 任	奏
四千四百	二級		
三千四百	三級		
二千四百	四級		
一千四百	五級		
一千二百	一級	任	
一千	二級		
八百	三級		
七百	四級		
六百	五級		
五百	六級		
四百	七級		
三百	八級		
二百	九級		
一百	十級		
六十	十一級		



秘

政務調査委員會決議第二號ノニ

- 一 法制局参事官ノ定員ヲ増加シ且各省ヨリ参事官一名ツ、ヲ兼任セシムル事
- 一 内務省中北海道局、臺灣事務局ヲ廢シ官房ニ課ヲ置ク事
- 一 大藏省所管ノ廣島鑛山ハ農商務ニ内務大藏兩省所管ノ鉄道ハ逋信省ニ移ス事  
但軌道條例ニ依ルモノハ再審ノ事
- 一 文部省圖書局ヲ廢スル事
- 一 農商務省工務局ヲ商務局ニ合併スル事

一 行政裁判所ノ權限ヲ擴張スル事

但法律案ハ法制局ニ於テ立案セシムル事

秘

政務調査委員會決議第三號

一 政務官ト事務官トノ區別ヲ立ル事

右ノ旨趣ニ依リ選舉法ノ改正案ニ於テ勅令ヲ以テ定ムルモ

ノ外官吏ニシテ議員ヲ兼ヌルコトヲ得サルモノトスル事

勅令ヲ以テ議員ヲ兼ヌルコトヲ得セシムル者ハ政務官ニ限ル

其政務官ト認ムル者ハ大体左ノ標準ニ依ル

一 國務大臣

二 各省次官

三 內閣書記官長

四 法制局長官

五 各省參與官

六 內務省警保局長

七 內務省縣治局長

一 政府委員ハ各省次官内閣書記官長法制局長官各省參與官トス特ニ説明ヲ要スル場合ニ其説明ノ為メ事務官ヲ充用スルコトヲ得

前項政府ヲ代表シ得ル政府委員ニ付テハ單ニ政府委員ヲ命スルノ辭令ヲ與ヘ其他ノ者ニ付テハ主務ノ事項ニ付政府委員ヲ命スル旨趣ニ依リ辭令ヲ與フルコト例ヘハ内務省土木事務ニ付政府委員ヲ命スト之ヲカ如シ

秘

政務調査委員會決議第四號

- 一 實際ノ情況ニ徴スルニ郡ノ自治事務ハ特ニ郡制ノ如キ複雑ナル制度ヲ存シテ之ヲ處理スルノ必要ナリ寧ロ之ヲ郡内町村組合ノ事業ニ移シ郡制ヲ廢シテ郡參事會ノ職務ハ府縣參事會ニ移シ以テ地方制度ノ整理ヲ計ル事
- 一 郡長任用法ニ付相當改正ヲ為ス事
- 一 右ハ主務省ニ於テ至急調査ノ上提出セシムル事

秘

政務調査委員會決議第六號

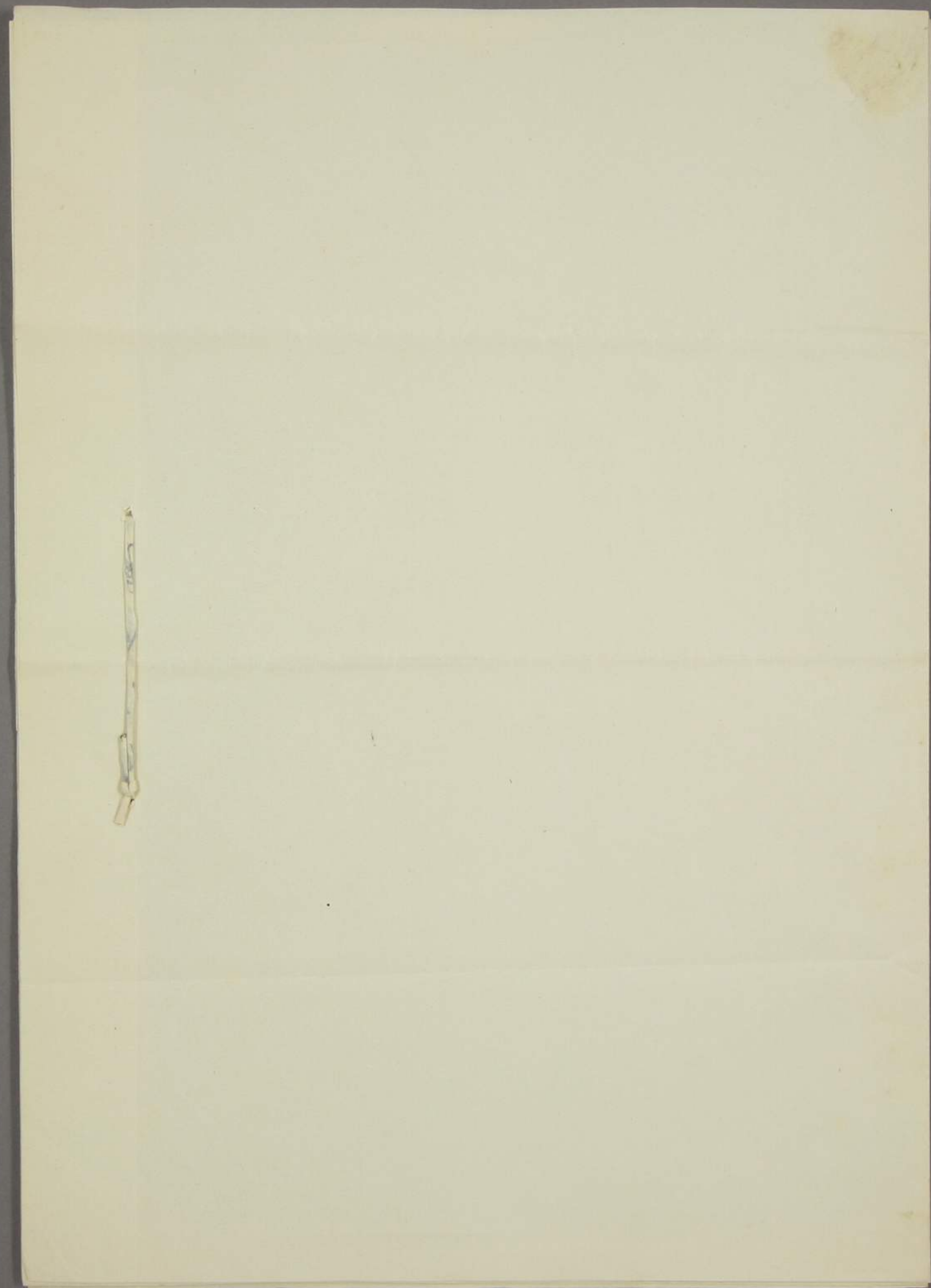
一 各省官制通則第九條中參事官<sub>ハ</sub>下「一人ヲ  
勅任トシ其他<sub>ハ</sub>」十字ヲ削除ス

一 同第十四條中「次官」次ニ參與官ノ三字ヲ加  
フ

一 同第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第 條 各省參與官二人勅任トシ省

務ニ參與セシム





武司 物

長 祿 寺 名 取



大隈公使  
大隈公使  
大隈公使

持公明  
大正友郎  
同令

武官臨時政務調査會

大隈公使  
大正友郎  
同令

秘

第三號議案修正案

一 政務官ト事務官トノ區別ヲ立ル事

右ノ旨趣ニ依リ選舉法ノ修正案ニ於テ勅令ヲ以テ定ムルモノノ外官吏ニシテ議員ヲ兼ヌルコトヲ得サルモノトスル事

勅令ヲ以テ議員ヲ兼ヌルコトヲ得セシムル者ハ政務官ニ限ル其政務官ト認ムル者ハ大体左ノ標準ニ依ル

- 一 國務大官
- 二 各省次官
- 三 内閣書記官長
- 四 法制局長官
- 五 各省參政官
- 六 内務省警保局長



七 内務省縣治局長

一 政府委員ハ各省次官内閣書記官長法制局長  
官各 省參政官トス特ニ説明ヲ要スル場合ニハ其  
説明ノ為メ事務官ヲ充用スルコトヲ得  
前項政府ヲ代表シ得ル政府委員ニ付テハ單ニ政府  
委員ヲ命スル辭令ヲ與ヘ其他ノ者ニ付テハ主務ノ  
事項ニ付政府委員ヲ命スル旨趣ニ依リ辭令ヲ與  
フルコト例ヘハ内務省土木事務ニ付政府委員ヲ命  
スト云フガ如シ

秘

#### 第四號議案

一 實際ノ情況ニ徴スルニ郡ノ自治事務ハ  
特ニ郡制ノ如キ復雜ナル制度ヲ存シテ之ヲ  
專理スルノ必要ナリ寧ロ之ヲ郡内町村組合  
ノ事業ニ移レ郡制ヲ廢シテ郡々奉會  
ノ職務ハ府縣々奉會ニ移レ以テ地方制  
度ノ整理ヲ計ル事

一 大体右ノ旨趣ニ依ルコトナレ其結果トシ  
テ法令及實際ニ於テ如何ナル影響ヲ生  
スルヤ一應主務者ニ於テ之ヲ調査スル事

一 郡長任用法ニ付相當改正ヲ為ス事  
一 右ハ主務者ニ於テ至急調査上提出セシ  
ムル事

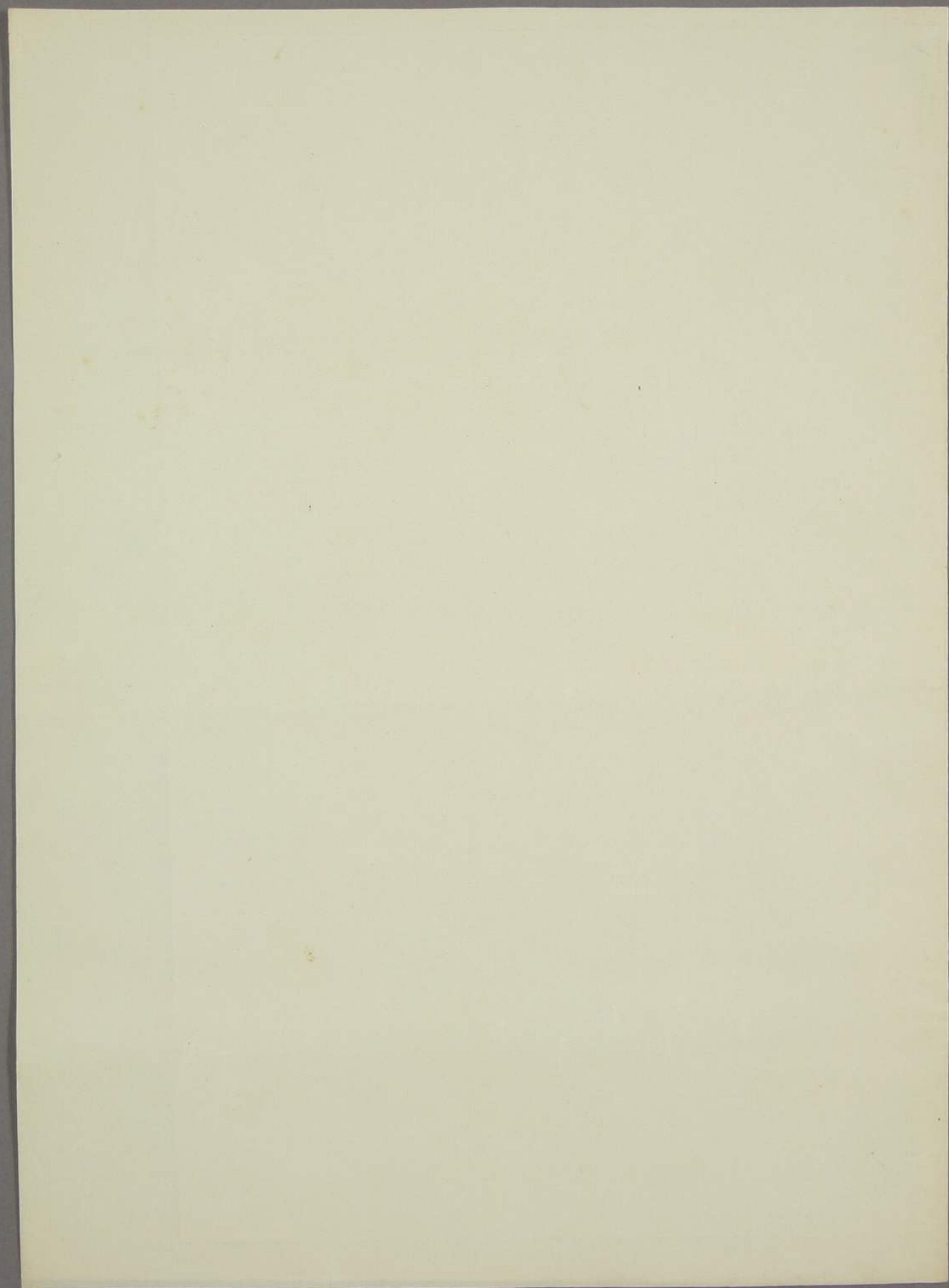
秘

### 第五號議案

一 司法省ヲ廢シテ其事務ヲ大審院ニ移ス事

一 控訴院ニヶ所又ハ三ヶ所ヲ減少シ地方裁判所ノ支部及區裁判所ノ員數ヲ地理上ノ便宜ニ從テ減少スル事

一 文部省直轄學校ノ校長教員ヲ官吏以外ノ地位ニ置クノ趣旨ヲ以テ主務省ヲシテ立案セシムル事



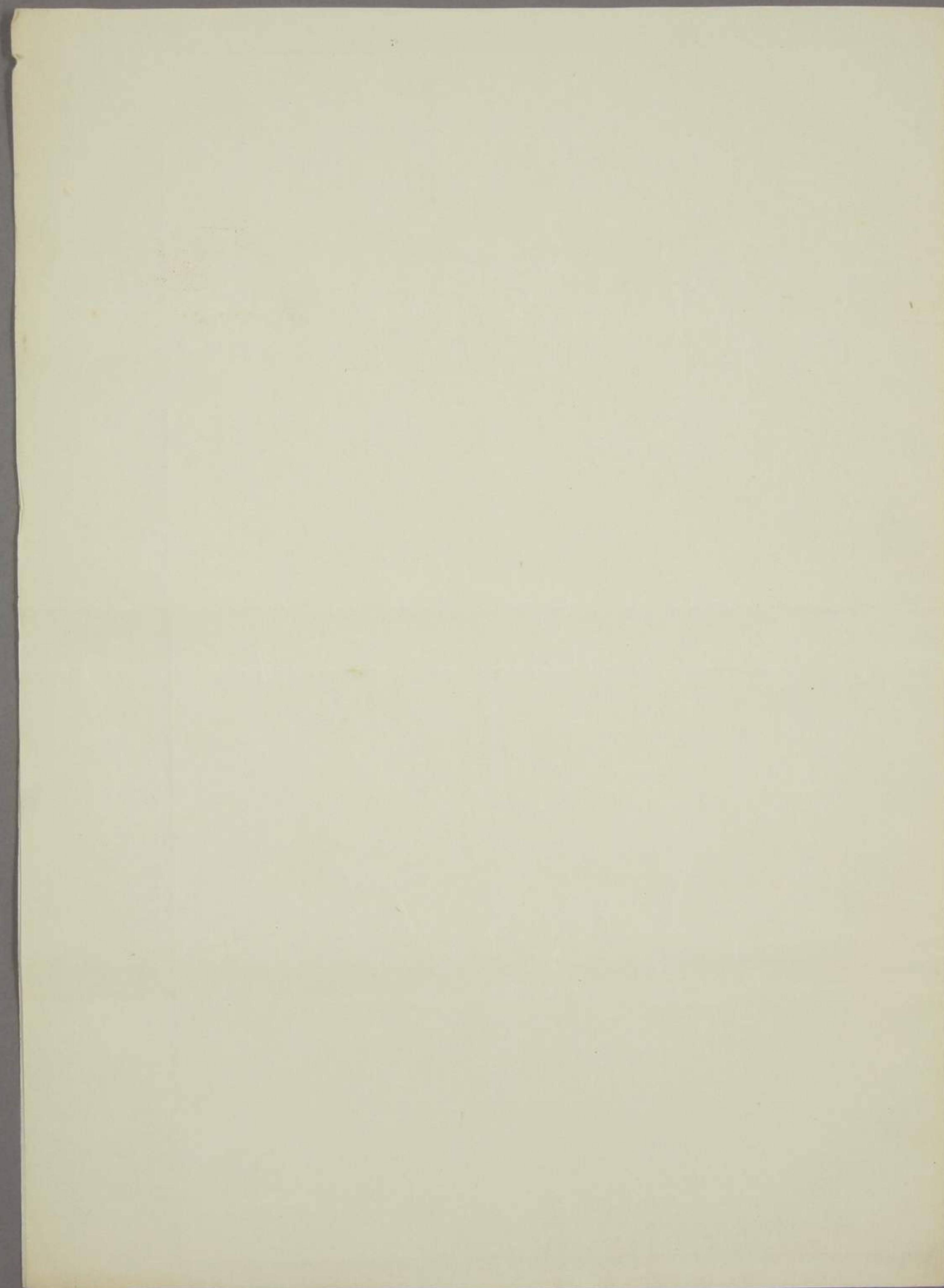


秘

### 第六號議案

- 一 各省官制通則第九條中參事官ハ  
ノ下「一人ヲ勅任トシ其他ハ」十字ヲ削除  
ス
  - 一 同第十四條中「次官」次ニ參政官ノ三字  
ヲ加フ
  - 一 同第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
- 第 條 各省參政官ハ一人勅任トシ  
政務ニ參與セシム

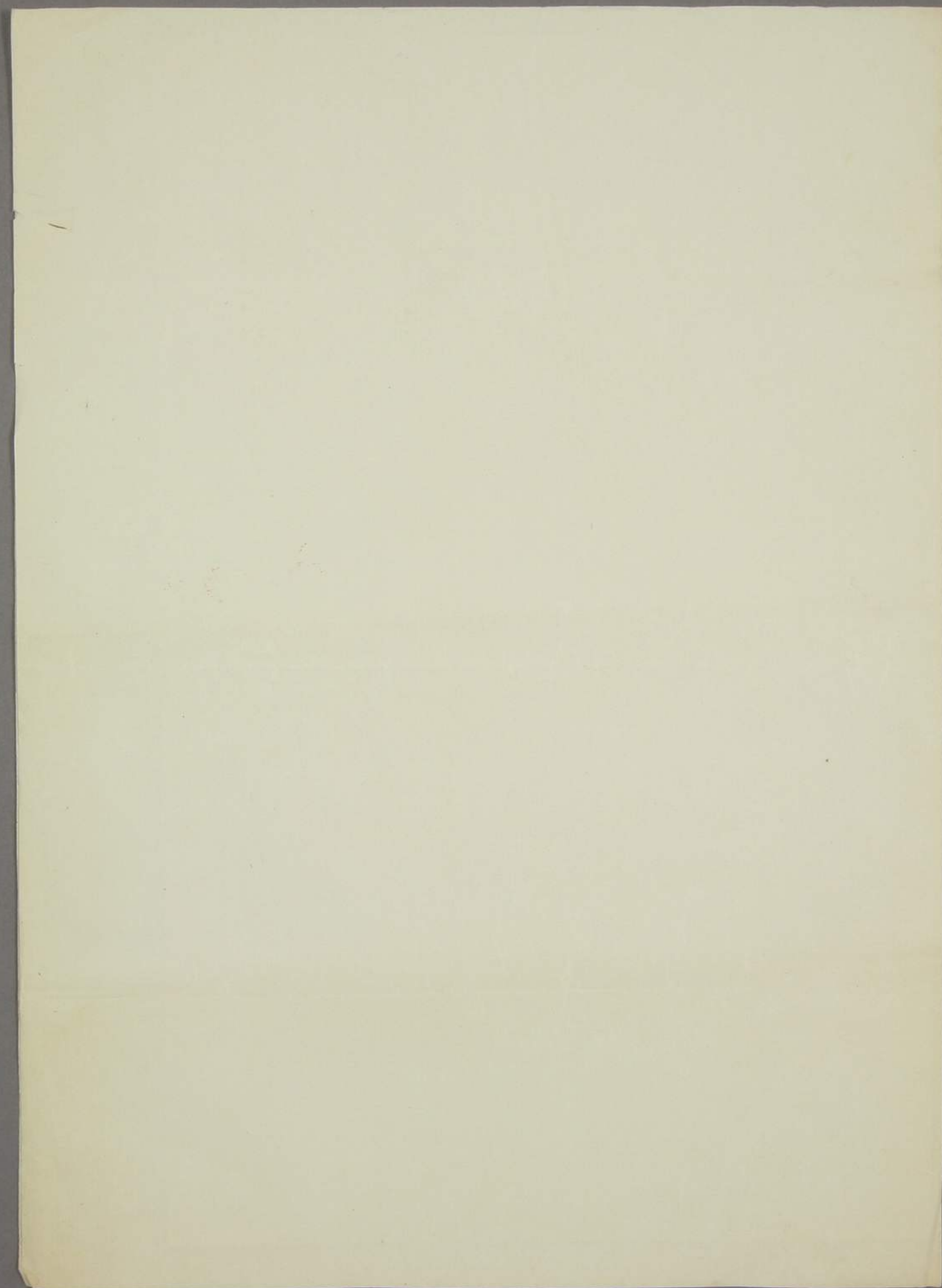




秘

第七號議案

- 一 各省判任官定員ノ五分ノ一ヲ減少スルコト
- 一 判任官ノ最下級俸ヲ十五圓(九級俸)ニ止ルコト



秘

第八号議案

- 一 北海道ニ於ケル山林水産ニ関スル行政事務ハ北海道局ヲ多難シ之ヲ農商務省ノ山林局水産局ニ屬ヤシムル改テ要ス
- 一 勸業銀行及農工銀行ノ損益ハ共ニ政府補助ノ多寡ニ關係スルヲ以テ政府ハ其業務ヲ監督シ其損失ヲ防遏セサルヘカラス而シテ該銀行ヲ貸付スル事業ノ性質ヲ鑑査シ之ヲシテ誤ナカラシムル為メニハ農商務大臣ノ監督ヲ要ス依テ大藏及農商務兩大臣ノ監督ノ下ニ該銀行ヲ置カントス
- 一 関稅ハ現今大藏省ノ專掌ニ屬スルモ其課稅ノ有無及稅率ノ高下ハ農商工業ノ政策ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ関稅ニ關スル法規ノ改廢ハ大

一 藏農商務兩大臣ノ協定ニ依リ提議スルコトニ決定スルヲ要ス

一 農商務省ノ主管事務ハ領事ノ職務ト密接ノ關係アルヲ以テ相互ノ通信ヲ要スルコト夥多ナルモ従来ハ一々外務省ニ依頼シ同省ノ訓令ヲ要スルヲ以テ時機ヲ失シ手数ヲ増スノ結果ヲ生ス依テ明治廿三年勅令第八十号日本帝國領事規則第廿九條ニ左ノ但書ヲ追加セリトス

第二十九條

領事ハ豫メ外務大臣ノ承諾ヲ得タル場合ノ外本邦他官廳ト直接通信スルコトヲ得ス但シ農商工業ニ関シ農商務省ト直接通信スルハ此限ニアラス

一 農商務大臣ハ海外ニ於ケル農商工業ニ関シ海外

駐在ノ領事ヲシテ其情況ヲ調査報告セシムルノ必要アリ依テ農商務省官制中ニ左ノ一項ヲ加ヘントス

農商務大臣ハ海外駐在ノ領事ニ農商工業ニ

関スル調査ヲ命ズルコトヲ得

一 外務省通商局ニ於テ毎月発行スル通商彙纂ハ單ニ領事ノ報告ヲ彙纂スルニ止マルヲ以テ農商務省ニ於テ発行スル臨時報告其他農商工業ニ関スル報告通信ヲ併セテ発行シ農商務省ニ於テ之ヲ主管セリトス

一 近來牛疫ノ為メニ國庫府縣町村及一個人ニ於テ損害ヲ受クルコト頗ル大ナリ而シテ牛疫ノ病源地ハ朝鮮及支那地方ニ於テ該地ヲ輸入スル牛畜ヲ検査スル為メニ長崎、神戸、横濱、三港ニ検査所

ヲ設ケ(其費用毎月二百円余ヲ要ス)又釜山港ニ於  
テハ輸出牛ニ對スル檢疫所ヲ設ケテ病毒ノ傳播  
ヲ防止スト雖モ其效果全キヲ得ス且朝鮮及支那ヨ  
リ輸入スル牛數ハ牛疫ノ為メニ斃死スルモノ、數ヲ  
少ナキヲ以テ輸入ヲ停止スルモ且毛モ産業上ニ差支ナ  
キニ依リ獸疫豫防法第十五條ニ依リ朝鮮及支那  
ヨリ生牛生皮ノ輸入ヲ停止セントス

414  
A4656



登録税上納書

一 増區係ル試掘地訂正願

右出願ニ付登録税込第十四條第ニ号金貳拾五圓ニ相当  
スル登記印紙ヲ貼用シ差出候也

東京市日本橋區蛸巻町三丁目十三番地

寄留

明治三十年十一月十八日

願人

岡村

貞





増區ニ係ル試掘地訂正願

明治三十年九月廿四日認可第五二四四号

一 群馬縣上野國利根郡湯ノ原村大字相俣

小字赤谷川又四ヶ村入会大源太山五万二千二百二十九坪

増 全郡全村大字全

小字大源太ノ内 山林

左 小出俣全 全

全郡久賀村大字猿ヶ京

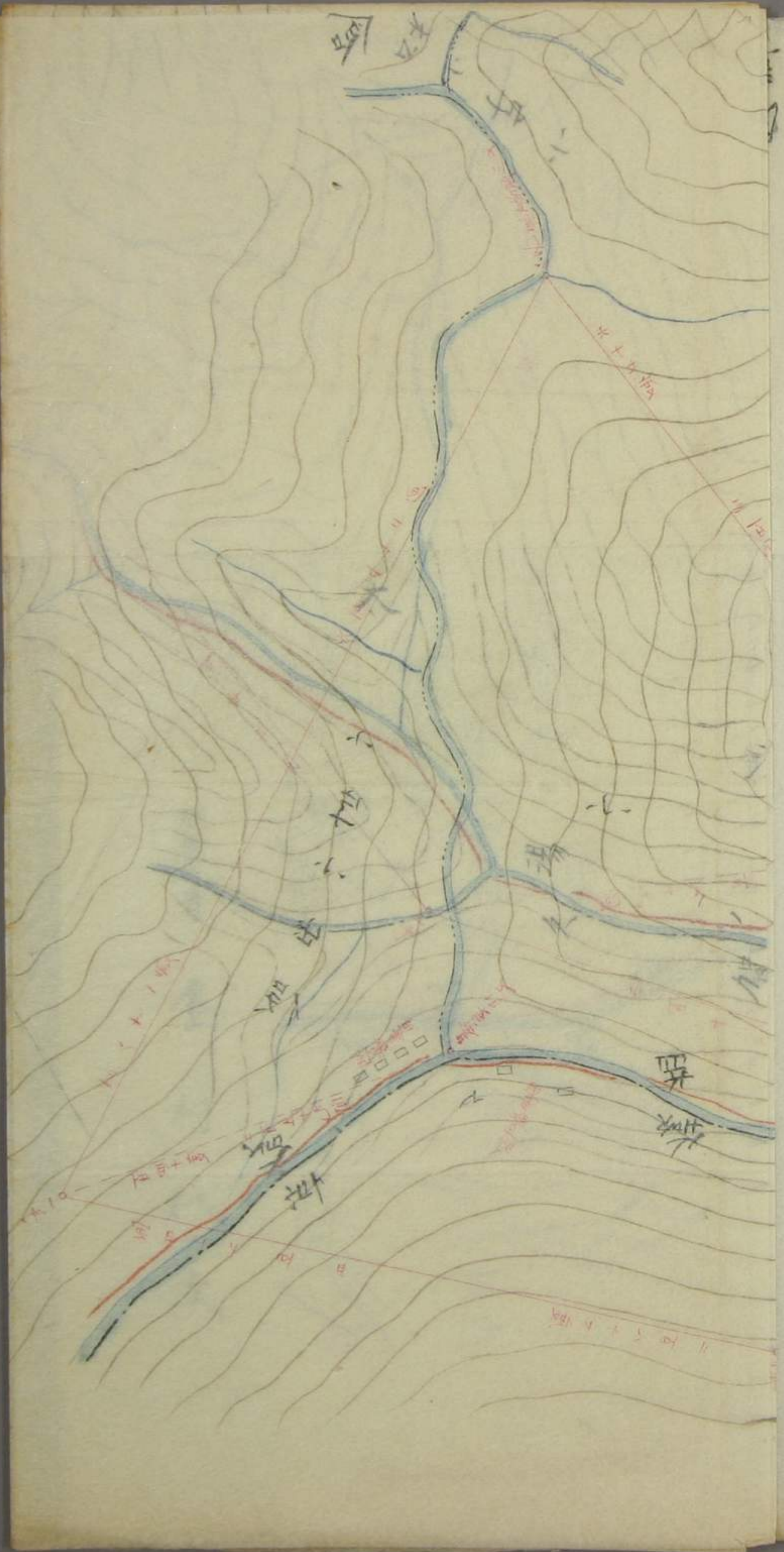
小字三國嶺ノ内 山林

計五拾四万三千七百五拾坪

合計五拾九万五千九百七拾九坪

右之場所ニ於テ試掘致居テ處ニ區域狹隘之為訂正致度ニ付





東京鑛山監督署長南挺三殿

認可相成度別紙訂正該掘地実測面相添此段相願至也

寄留  
東京市日本橋區蛸壳町三丁目十二番地

明治三十年十月十八日

願人 岡村

貞



明治三十年正月十八日  
 願人 岡村 貞

東京鑛山監督署長南挺三殿

銅鑛試掘地實測圖

尺度六十分一

明治三十年九月廿四日認可第544号

一 群馬縣上野國利根郡湯ノ原村大字相俣

小字赤谷川入四ノ村入会大源太山五万二千二百二拾九坪

増全郡湯ノ原村大字相俣  
 小字大源太ノ内官地山林  
 全 小出俣全 全

全郡久賀村大字猿ヶ京  
 小字三國嶺ノ内官地山林

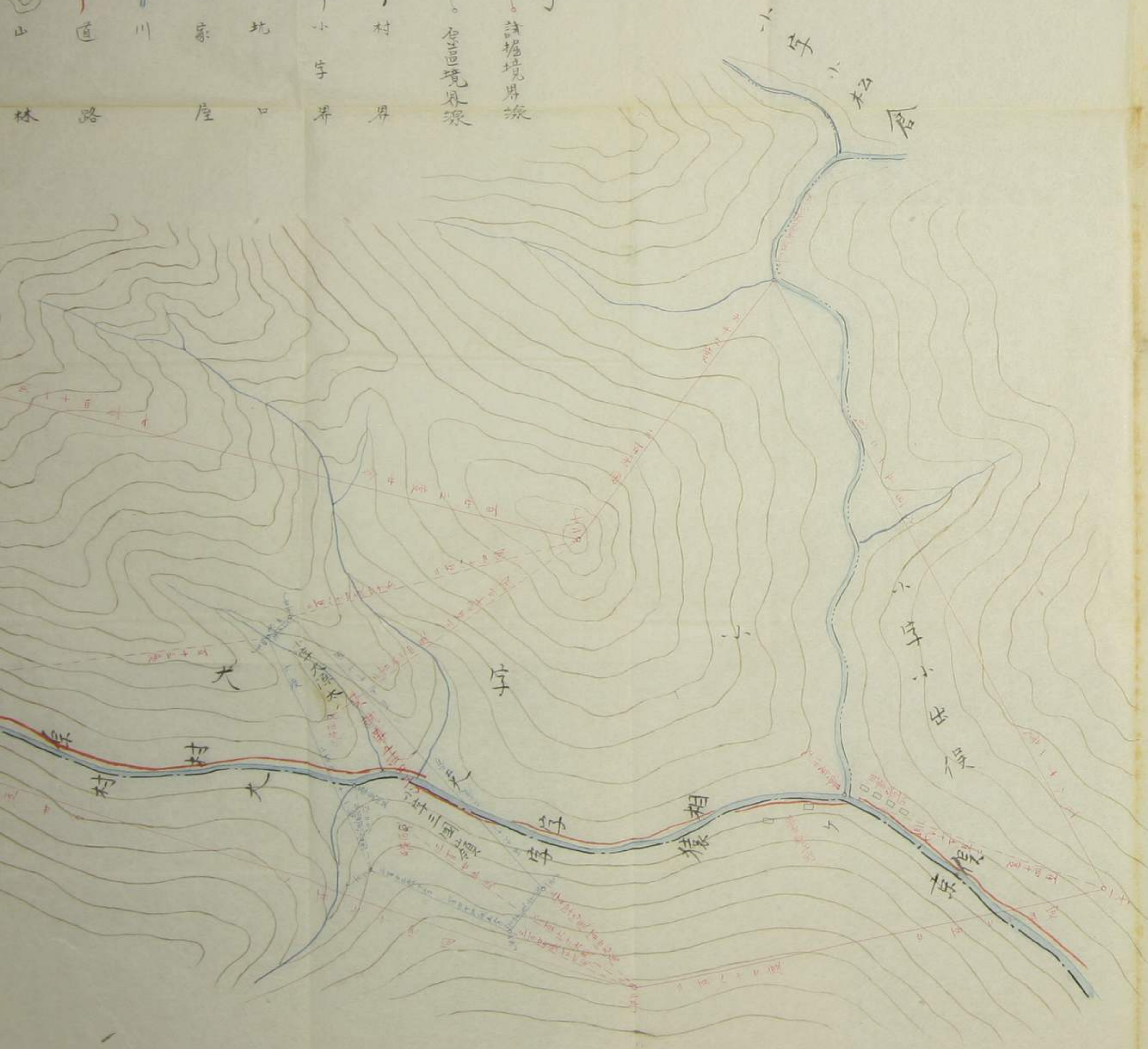
計五拾四万三千七百五拾坪  
 合計五拾九万五千九百七拾九坪

東京市日本橋區蛸壳町三百十二番地  
 寄番

願人 岡村 貞

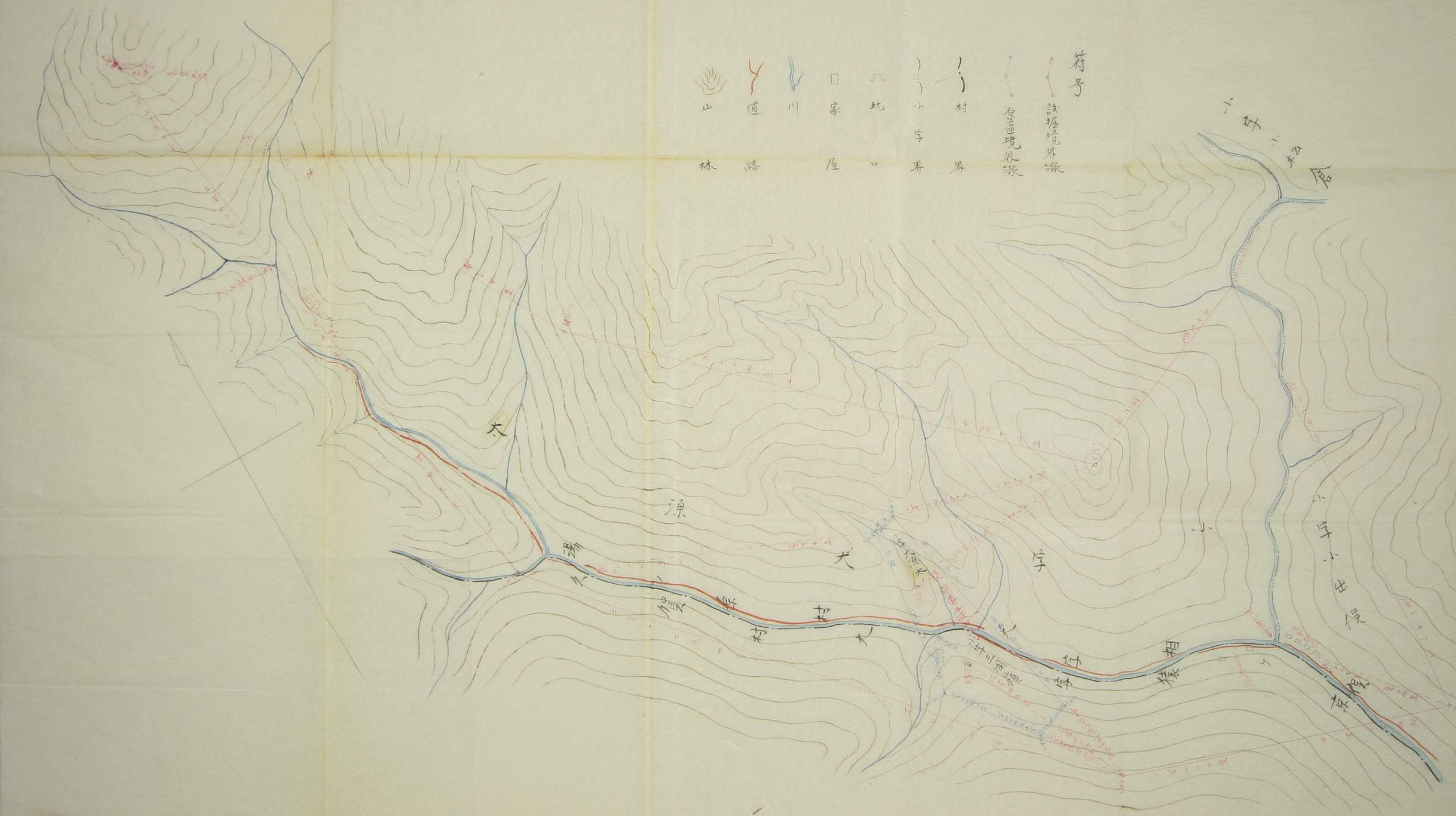
測量者 島村代次

符号  
 〇 試掘境界線  
 〇 官區境界線  
 〇 村界  
 〇 小字界  
 □ 坑  
 □ 家  
 〇 川  
 〇 道  
 〇 林



符号

							
山	道	川	家	地	小	村	县
林	路	屋	口	界	界	界	界



林ノ百五ノ百ノ林ノ林

林ノ百三ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林

林ノ百ノ百ノ林ノ林





局	着	局	發	信	受
印 附 日	取受 扱者價	付受 者價	第		
	午後 6時	午後 5時	第一 八九		
	分	分	日 號		
			局 報		



Handwritten Japanese characters, likely a recipient address or name, including characters like 'ト', 'シ', 'タ', 'テ', 'ク', 'ノ', 'ハ', 'ニ', 'ヨ', 'リ'.

Handwritten Japanese characters in a vertical column, possibly a message or code, including characters like 'ゴ', 'コ', 'イ', 'テ', 'セ', 'ハ', 'ウ', 'ク', 'オ', 'モ', 'ム', 'キ', 'ハ'.

Vertical red text: 着第 日本政府電報送達紙 號 記 親 至急官報

Handwritten Japanese characters in a vertical column, possibly a sender's name or address, including characters like 'ト', 'シ', 'タ', 'テ', 'ク', 'ノ', 'ハ', 'ニ', 'ヨ', 'リ'.



114  
A

印度產白乳雀法獻上



之處御滿足、彼

思食新宥法耕地內主

獵鳥志管動物園、於

飼養可致育

御由意被為任後以波申

進後也

四法三子、子、子、子

Vertical text on the far left edge, partially cut off.



創表可致首

御由意被為任後山設申

進後也

四法三子年八百五口

信運長任壽時德大等實則

內州總理在伯壽時大隈等信殿

進言去儀、法孫行方之

法沛在、儀言上其處

御承知、為任其以設

添之也



414  
A 4636



世猶前循之跡  
德之履清之性  
以清健之志  
行于道報五帝之  
高必多之毅德  
以多心也平之  
孝也一平之速  
清之文也平之  
中如也清之  
真

下  
中  
建

大隈鴻程長閣



414  
A4656

柳成公試通立

其不夜公使了雪林

接列月自公家

相公作衣上為衣

陸海軍一士

道海軍一士

一

一

九

一

大